

# 安心して暮らせる環境づくりを通して 沖縄の人々と共存共栄し、地域に貢献したい

## 株式会社 巧建オキナワ

沖縄県浦添市内間 5-4-7 (2F)  
URL : <http://koken-okinawa.com/>

建築塗装を中心に、防水工事や住宅・店舗のリフォーム工事を手掛ける『巧建オキナワ』。関わる人たちや地域との共存共栄、地域貢献をモットーに、安全安心な生活環境を創造している。現地確認からはじまり、施工後のアフターメンテナンスまでの丁寧な仕事が強みだ。本日はつまみ枝豆氏が、外間社長にお話を伺った。



代表取締役  
外間 洋平



——早速ですが、外間社長の歩みからお聞かせ下さい。

沖縄県・南風原町の出身で、学業修了後は愛知県で半年ほど働いていましたが、帰郷しました。建設業界に入って、知り合いから誘われて塗装の仕事に携わるようになり、ちょうど沖縄サミットの前だったことから忙しかったですね。誘われて始めた仕事でしたが、塗装業の奥深さに魅了されていきました。

——塗装業の奥深さ、と言いますと？

ただ塗れば良いというものではなく、用途に合わせて塗料を選び、お客様が希

望される色を表現するために混ぜ合わせたりしますが、そこには知識と経験からくる職人の勘が求められます。やればやるほど、その奥深さを感じるようになり、仕事に面白みを見出していったんです。

——そうした世界だからこそ、修業は厳しかったのではありませんか。

ええ。先輩から叱咤されながら仕事をしていました。とにかく、負けたくないという思いで必死に勉強しましたね。何年か経って、現場を任せてもらえるようになってからも、やはり先輩からは厳しく指導されました。でも、仕事が終われば気さくに接して下さり、仕事には緊張感を持って厳しい姿勢で臨むべきだと教わった気がします。

——当時から独立を目指しておられて？

はい。一人前になったら、自分で事業を起こそうと考えていました。そのため、現場だけでなく営業も経験しておこうと、2年間営業職にも携わりました。門前払いがほとんどでしたから、つらい思いもしましたが、独立した時に必ず役立つと思って、踏ん張りましたね。そうして実際に独立したのは、2012年。31歳の時でした。自分1人でスタートし、忙しい時は応援に来てもらって、自分も応援に行ったものです。塗装業に限らず、建設業界は横のつながりが大事で、そこを疎かにすると続けていくことは難しいでしょうね。私も随分と、横のつながりに助けられましたから。

——競合しながらも、共存共栄していくというわけですね。同業者も多い中、御社の強みはどんなところですか。

技術に自信があることはもちろんですが、かゆいところに手が届くような、細やかなサービスと気配りができるところが強みだと思っています。また、私を含めて7名で動いており、若手が中心なのでフットワークが軽く、チームワークも万全なんですよ。

——やはり「企業は人なり」ですね。今後については、いかがですか。

安全安心な生活環境を創造し、周りの方々と共存共栄していく。これに尽きます。社員や関連会社、お客様と手を携えて、当社に関わるすべての人が幸せになれるこそ、事業を行う意味がありますから。微力ながら、事業を通して沖縄に貢献していきたいですね。

(2019年3月取材)



20歳で結婚されて、家族のために必死に働かれたという外間社長。ご長女が高校2年生、ご長男が中学1年生で、休日は子どもたちの部活の試合を応援に行くことが楽しみだとか。お子さんたちの頑張る姿にパワーをもらえるのですね。



外間社長が絶大の信頼を寄せる  
宇良工事部主任を交えて